

令和2年度  
下水道に関する人身事故発生状況について  
(令和2年9月末現在)

1. 総括
2. 維持管理作業
3. 工事

国土交通省 水管理・国土保全局  
下水道部

# 1.人身事故発生状況(総括)

(令和2年9月末現在)

令和2年度

(単位:件)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	7月までの集計	合計
維持管理作業	1. 死亡事故	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	2. 負傷事故	4 (1)	2 (1)	2 (1)	5 (3)	5 (1)	2 (1)	0 (5)	0 (5)	0 (5)	0 (5)	0 (7)	0 (1)	13 (6)	20 (36)
	合計	4 (1)	2 (1)	2 (1)	5 (3)	5 (1)	2 (1)	0 (5)	0 (5)	0 (5)	0 (5)	0 (7)	0 (1)	13 (6)	20 (36)
	累計	4 (1)	6 (2)	8 (3)	13 (6)	18 (7)	20 (8)	20 (13)	20 (18)	20 (23)	20 (28)	20 (35)	20 (36)	-	-
工事	1. 死亡事故	2 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (0)	2 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (1)	0 (1)	0 (2)	0 (1)	0 (0)	4 (1)	6 (7)
	2. 負傷事故	0 (4)	4 (4)	5 (3)	7 (7)	9 (6)	11 (4)	0 (15)	0 (9)	0 (9)	0 (5)	0 (10)	0 (11)	16 (18)	36 (87)
	合計	2 (4)	5 (5)	5 (3)	8 (7)	11 (6)	11 (5)	0 (15)	0 (10)	0 (10)	0 (7)	0 (11)	0 (11)	20 (19)	42 (94)
	累計	2 (4)	7 (9)	12 (12)	20 (19)	31 (25)	42 (30)	42 (45)	42 (55)	42 (65)	42 (72)	42 (83)	42 (94)	-	-
合計	1. 死亡事故	2 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (0)	2 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (1)	0 (1)	0 (2)	0 (1)	0 (0)	4 (1)	6 (7)
	2. 負傷事故	4 (5)	6 (5)	7 (4)	12 (10)	14 (7)	13 (5)	0 (20)	0 (14)	0 (14)	0 (10)	0 (17)	0 (12)	29 (24)	56 (123)
	合計	6 (5)	7 (6)	7 (4)	13 (10)	16 (7)	13 (6)	0 (20)	0 (15)	0 (15)	0 (12)	0 (18)	0 (12)	33 (25)	62 (130)
	累計	6 (5)	13 (11)	20 (15)	33 (25)	49 (32)	62 (38)	62 (58)	62 (73)	62 (88)	62 (100)	62 (118)	62 (130)	-	-

※下段()書きは前年度(令和元年度)の値  
 ※国土交通省へ報告のあった事故について集計

## 2.人身事故発生状況(維持管理作業) (令和2年9月末現在)

令和2年度

(単位:件)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度 合計
事業者主体	1. 都道府県	0	2	0	1	4	1	0	0	0	0	0	0	8	16
	2. 政令市	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	5
	3. 一般市	2	0	1	3	1	1	0	0	0	0	0	0	8	12
	4. 町村	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
	5. その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	4	2	2	5	5	2	0	0	0	0	0	0	20	36
発生施設	1. 管渠	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2. マンホール	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	3	4
	3. 処理場	3	1	2	2	4	1	0	0	0	0	0	0	13	22
	4. ポンプ場	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	4
	5. その他	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2	6
	合計	4	2	2	5	5	2	0	0	0	0	0	0	20	36
事故類型	死亡事故	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	1. 墜落・転落	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2. はさまれ・巻き込まれ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3. 飛来・落下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4. 切れ・こすれ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5. 転倒	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	6. 激突	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	7. 土砂崩壊	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	8. 交通事故	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	9. 感電	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	10. おぼれ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	11. 火災・爆発	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	12. 公衆災害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	13. 作業車両の横転	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	14. その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	負傷事故	4	2	2	5	5	2	0	0	0	0	0	0	20	36
	1. 墜落・転落	1	1	2	2	1	1	0	0	0	0	0	0	8	11
	2. はさまれ・巻き込まれ	1	1	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	5	8
	3. 飛来・落下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4. 切れ・こすれ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	5. 転倒	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	3
	6. 激突	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	7. 土砂崩壊	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	8. 交通事故	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	9. 感電	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	10. おぼれ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	11. 火災・爆発	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	12. 公衆災害	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	13. 作業車両の横転	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	14. その他	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	9
合計	4	2	2	5	5	2	0	0	0	0	0	0	20	36	
被災者数(人)	1. 自治体職員	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	2
	2. 委託先業者	3	2	1	3	10	2	0	0	0	0	0	0	21	33
	3. 第三者	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	合計(人)	4	2	2	5	10	2	0	0	0	0	0	0	25	36
累計	4	6	8	13	23	25	25	25	25	25	25	25	-	-	

令和元年度

(単位:人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
被災者数(人)	1. 自治体職員	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2
	2. 委託先業者	1	1	1	3	1	1	4	4	5	5	6	1	33
	3. 第三者	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	合計(人)	1	1	1	3	1	1	5	5	5	5	7	1	36
累計	1	2	3	6	7	8	13	18	23	28	35	36	-	

※国土交通省へ報告のあった事故について集計

# 人身事故情報データベース(維持管理作業)

令和2年9月末現在

NO.	発生年月日	事故情報			事故概要・発生防止策		被災者				
		事業主体	発生施設	事故類型	事故概要	再発防止策等	被災者	年齢	性別	被害状況	
9月											
1	R2.9.5	1. 都道府県	処理場	①負傷事故	⑤転倒	汚泥処理設備の清掃作業中に、高さ30cmの踏台から右足を下ろうとしたところ、付近にある約5cmの段差に足を取られ転倒し、右足小指の付け根を骨折した。	当日終礼時に事故の状況を共有し、今後同様な事故が発生しないように十分注意をすることを徹底指導。	委託先業者	52	男	右足小指の付け根骨折
2	R2.9.11	3. 一般市	その他	①負傷事故	①墜落・転落	降雨があったため、作業員2名で取水スクリーンの閉塞状況を確認に行った。午前4時頃に現場に到着し、被災者は取水スクリーンの確認に向かったが、運転手だった作業員は車後方へ行き傘を取り出していたところ、水路(開渠、深さ1.7m)の方で物音がした。急いで水路を確認したところ、ヘルメットが流されているのを確認したが、被災者を発見できなかったため消防署へ救助を要請した。レスキュー隊が到着し捜索したところ50m程下流で水路内を歩いている被災者が発見され、病院へ搬送された。 (※被災者は軽度の脳震盪により記憶が欠如しており、詳しい事故原因は不明。なお、事故当時は懐中電灯及びヘルメット装着ライトを所持。)	作業員がフルハーネスを装着し、作業車(軽トラック)荷台に設置した転落制止器具と接続する転落防止策を検討中。 また、作業車荷台に照明器具の設置を検討中。	委託先業者	63	男	打撲、切傷、低体温症、軽度の脳震盪

### 3.事故発生状況(工事) (令和2年9月末現在)

令和2年度

(単位:件)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度 合計
事業者主体	1. 都道府県	0	2	0	2	2	1	0	0	0	0	0	0	7	13
	2. 政令市	3	5	1	4	3	10	0	0	0	0	0	0	26	36
	3. 一般市	1	3	7	4	6	4	0	0	0	0	0	0	25	55
	4. 町村	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2	7
	5. その他	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	合計	4	10	8	11	12	16	0	0	0	0	0	0	61	111
工事分類	1. 管きょ開削	2	6	5	8	7	8	0	0	0	0	0	0	36	59
	2. 管きょ推進	1	1	1	2	1	1	0	0	0	0	0	0	7	8
	3. 管きょシールド	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	9
	4. 管きょその他	1	1	0	0	3	2	0	0	0	0	0	0	7	5
	5. 処ボ土木建築	0	2	0	1	0	3	0	0	0	0	0	0	6	19
	6. 処ボ機械電気	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	11
	7. 処ボその他	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	合計	4	10	8	11	12	16	0	0	0	0	0	0	61	111
事故類型	1. 墜落・転落	0	1	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	4	21
	2. はさまれ・巻き込まれ	1	1	1	2	3	1	0	0	0	0	0	0	9	29
	3. 飛来・落下	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	8
	4. 切れ・こすれ	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	3	4
	5. 転倒	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	3
	6. 激突	0	0	1	2	1	1	0	0	0	0	0	0	5	5
	7. 土砂崩壊	1	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	5	8
	8. 交通事故	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2
	9. 感電	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	10. おぼれ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	11. 火災・爆発	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	12-1. 公衆災害(人身)	0	1	0	3	1	1	0	0	0	0	0	0	6	11
	12-2. 公衆災害(物損)	2	5	3	2	1	6	0	0	0	0	0	0	19	17
	13. 作業車両の横転	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	14. その他	0	1	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	4	3
合計	4	10	8	11	12	16	0	0	0	0	0	0	61	111	
被災者数(人)	1. 死亡	2	1	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	6	7
	2. 重傷	0	4	4	6	8	6	0	0	0	0	0	0	28	67
	3. 軽傷	0	3	1	1	1	5	0	0	0	0	0	0	11	26
	合計(人)	2	8	5	8	11	11	0	0	0	0	0	0	45	100
	累計	2	10	15	23	34	45	45	45	45	45	45	45	-	-
その他(民間発注工事など)															
	1. 死亡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	2. 負傷	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

令和元年度

(単位:人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
被災者数(人)	1. 死亡	0	1	0	0	0	1	0	1	1	2	1	0	7
	2. 重傷	1	2	2	4	6	4	13	8	4	5	8	10	67
	3. 軽傷	3	2	1	6	0	0	3	1	5	0	3	2	26
	合計(人)	4	5	3	10	6	5	16	10	10	7	12	12	100
	累計	4	9	12	22	28	33	49	59	69	76	88	100	-
その他(民間発注工事など)														
	1. 死亡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	2. 負傷	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※国土交通省へ報告のあった事故について集計

# 事故情報データベース(工事)

令和2年9月末現在

NO.	発生日月							被災者		
		事業主体	工事分類	従事作業	発生場所	事故概要	事故類型	年齢	性別	被害状況
9月										
1	R2.9.1	3.一般市	6.処ボ機械電気	マンホール内バキューム作業	現場内	マンホールのステップ上昇中に2m程度の高さから、1.3～1.5m程度水が溜まったマンホール内部に落下し、下部に設置していた足場に接触し外傷を負ったもの。安全帯は不使用だった。	1.墜落・転落	60	男	左後頭部外傷
2	R2.9.1	2.政令市	4.管きよその他	交通誘導	現場内	工事の事前調査のため、管内TVカメラのオペレータが、人孔の転落防止器具を外したままカメラ調整を行っている際、強風にあおられた立入禁止柵が転倒した。これを再設置しようと立入禁止区域内に立ち入った交通誘導警備員が、誤って人孔開口部から約8m下の人孔底部に落下したものの。	1.墜落・転落	49	男	右踵骨折、左足関節骨折、左距骨骨折、胸椎圧迫骨折、仙骨骨折、左肩打撲
3	R2.9.2	3.一般市	1.管きよ開削	仮設材設置	現場内	開削工事の掘削内で作業員が仮設作業中に土砂が崩落し、作業員が巻き込まれ、昇降梯子と仮設材との間に挟まれたもの。	7.土砂崩壊	44	男	左側頭部骨折及び脳内出血
4	R2.9.2	2.政令市	5.処ボ土木建築	躯体改造工	現場内	躯体改造工において、コンクリートカッターで壁を切断していたところ、足場から足を踏み外しバランスを崩した際にコンクリートカッターの刃が右手に接触し、右手親指および人差し指の腱と神経を切断したものの。	4.切れ・こすれ	24	男	右手裂傷、腱・神経切断
5	R2.9.4	2.政令市	1.管きよ開削	-	現場内	ガス会社との立会の際に確認した管の位置まで距離があったため、掘削内に埋設管が無いとの思い込みがあり、汚水樹取付管補修か所を開削時に、ガス供給管ポリエチレン管φ30mmを損傷(土被り80cm)させたもの。	12-2.公衆災害(物損)			ガス管損傷
6	R2.9.9	2.政令市	1.管きよ開削	電動ピックによる路盤破碎作業	現場内	路盤を重機(0.1BH)にて掘削していたが、大きなガラが出てきたため、重機で揺すり路盤を緩め、ガラを重機のバケットですくい取ったときにガス管を損傷したもの。その後、ガス漏洩の認識がないまま電動ピックの電源を入れたため、火花などが発生したことによりガスに引火し、やけどを負ったもの。	12-2.公衆災害(物損)	-	-	ガス管損傷 1度熱傷
7	R2.9.15	4.町村	1.管きよ開削	準備工	現場内	資材置き場において、電動式丸ノコにより木杭を切断していたところ、キックバックを起こし右足大腿部上部を傷つけたもの。	4.切れ・こすれ	71	男	右大腿部切挫傷
8	R2.9.15	2.政令市	1.管きよ開削	-	現場内	ガス供給管周辺がセメント処理されており、スコップにて手掘り掘削を行っていたが、セメント処理された箇所を撤去ができなかったため、バックホウにて撤去しようとした際にガス供給管ポリエチレン管φ25mmを損傷させたもの。	12-2.公衆災害(物損)			ガス管損傷
9	R2.9.16	2.政令市	1.管きよ開削	-	現場内	ガス管の埋設シートの横を探針棒で調査し、シートの脇には管が無いと判断してバックホウで掘削していたところ、実際にはシートと管の位置がずれており、供給管(φ30)を損傷させたもの。	12-2.公衆災害(物損)			ガス管損傷
10	R2.9.17	2.政令市	1.管きよ開削	-	現場内	下水取付管補修工事において、ガス担当者よりマーキング範囲から50cmまでは手掘りで確認するよう指示を受けていたにもかかわらず、機械にて掘削を進めていたところ、マーキング範囲から40～50cmの位置にあったガス引込管(φ30ポリエチレン管)を掘削機のバケットの爪にて損傷させたもの。	12-2.公衆災害(物損)			ガス管損傷
11	R2.9.17	2.政令市	1.管きよ開削	-	現場内	ガス管の竣工図も存在せず、気を付けながら掘削していたが浅埋に埋設していないだろうと過信しており、試掘時にDP=0.40mlに配管しているガス管φ40をバックホウで破損させたもの。	12-2.公衆災害(物損)			ガス管損傷
12	R2.9.21	3.一般市	2.管きよ推進	-	現場内	交通誘導員が反対車線へ指示を行ったが、自転車通行人が歩道側へ走行し、置いてあった覆工板に当たり転倒し腰を強打したものの。	12-1.公衆災害(人身)	46	男	腰の打撲・腕の擦り傷
13	R2.9.23	2.政令市	5.処ボ土木建築	芯出し調整	現場内	ポンプと減速機の芯出し作業中に、カップリング回転用の工具と減速機架台の間に左手小指を挟み、手まわり回転作業の勢いで第一関節部を切断したものの。	2.はさまれ・巻き込まれ	38	男	左小指切断、左小指末節骨開放性骨折
14	R2.9.24	2.政令市	4.管きよその他	交通誘導	現場内	片側交互通行規制解除直前に、ガードマンが病院から出る車を誘導中、追い越し車線を走る車を制止するため車道に出たが、追越車線を直進する車両に跳ねられたもの。	8.交通事故			肋骨骨折
15	R2.9.29	3.一般市	5.処ボ土木建築	鉄筋仕上げ	現場内	本来の昇降位置からの移動ではなく、油断による近道行動により持場へ移動する際、外枠受用型枠に左足を乗せ右足を同様に型枠に移動させる際、左足を滑らせ転倒し、その際とっさに左手で支えようとして被災したものの。	1.墜落・転落	39	男	左橈骨遠位端骨折
16	R2.9.29	1.都道府県	6.処ボ機械電気	床面研り	現場内	水処理設備の床に埋設されているレールを撤去するための研り作業中、研り機の子セル(先端部分)が折れ、その反動で手元が狂って残った子セルが被災者の右足親指の付け根(安全靴の鉄板の無い部分)に当たり負傷したものの。	6.激突	38	男	右足親指骨折

令和2年度  
下水道に関する水質事故等発生状況について  
(令和2年9月末現在)

国土交通省 水管理・国土保全局  
下水道部

# 水質事故等発生状況

(令和2年9月末現在)

[総括]

(単位:件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
水質事故等 合計	9 (1)	3 (2)	6 (3)	3 (5)	5 (7)	2 (1)	0 (5)	0 (6)	0 (3)	0 (1)	0 (6)	0 (1)	28 (41)
累計	9 (1)	12 (3)	18 (6)	21 (11)	26 (18)	28 (19)	28 (24)	28 (30)	28 (33)	28 (34)	28 (40)	28 (41)	- -

[内訳]

(単位:件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
事業主体	1. 都道府県	2 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (2)	1 (0)	2 (1)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (3)	0 (0)	6 (10)
	2. 政令市	1 (0)	0 (1)	0 (1)	2 (1)	0 (2)	0 (0)	0 (1)	0 (4)	0 (1)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	3 (12)
	3. 一般市	6 (0)	2 (1)	4 (1)	1 (2)	4 (4)	0 (0)	0 (3)	0 (1)	0 (2)	0 (0)	0 (2)	0 (1)	17 (17)
	4. 町村	0 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)
	5. その他	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	合計	9 (1)	3 (2)	6 (3)	3 (5)	5 (7)	2 (1)	0 (5)	0 (6)	0 (3)	0 (1)	0 (6)	0 (1)	28 (41)
発生施設	1. 管渠	5 (0)	1 (0)	2 (2)	1 (1)	0 (1)	0 (0)	0 (1)	0 (2)	0 (2)	0 (0)	0 (2)	0 (0)	9 (11)
	2. マンホール	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (1)	1 (1)	1 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (4)
	3. 処理場	3 (1)	2 (1)	1 (0)	0 (2)	2 (2)	1 (1)	0 (2)	0 (3)	0 (0)	0 (1)	0 (3)	0 (1)	9 (17)
	4. ポンプ場	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)
	5. その他	1 (0)	0 (1)	2 (0)	1 (1)	2 (3)	0 (0)	0 (2)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	6 (9)
	合計	9 (1)	3 (2)	6 (3)	3 (5)	5 (7)	2 (1)	0 (5)	0 (6)	0 (3)	0 (1)	0 (6)	0 (1)	28 (41)
原因者	1. 下水道管理者(委託先含む)	3 (1)	3 (1)	5 (2)	2 (1)	1 (3)	1 (0)	0 (0)	0 (3)	0 (1)	0 (0)	0 (3)	0 (0)	15 (15)
	2. 民間事業者(一般人を含む)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	2 (1)	0 (1)	0 (3)	0 (1)	0 (2)	0 (0)	0 (1)	0 (1)	4 (11)
	3. その他(天災、原因者不明含む)	4 (0)	0 (1)	1 (1)	1 (3)	2 (3)	1 (0)	0 (2)	0 (2)	0 (0)	0 (1)	0 (2)	0 (0)	9 (15)
	合計	9 (1)	3 (2)	6 (3)	3 (5)	5 (7)	2 (1)	0 (5)	0 (6)	0 (3)	0 (1)	0 (6)	0 (1)	28 (41)
事故類型	① 悪質下水の流入(放流水質が基準に不適合)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (1)	1 (2)
	② 悪質下水の流入(放流水質が基準に適合)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)
	③ 悪質下水の流入によらない放流水質の基準不適合	2 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (1)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (2)	0 (0)	5 (3)
	④ 雨水管からの悪質下水の流出	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (1)	1 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (4)
	⑤ 下水道施設からの下水等の流出	5 (0)	1 (1)	2 (2)	2 (1)	1 (3)	1 (1)	0 (1)	0 (3)	0 (1)	0 (0)	0 (2)	0 (0)	12 (15)
	⑥ その他事故(①～⑤以外の事故)	0 (0)	0 (1)	0 (1)	0 (3)	0 (1)	0 (0)	0 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (2)	0 (0)	0 (11)
	水質事故 合計	9 (0)	2 (2)	4 (3)	2 (5)	4 (6)	2 (1)	0 (5)	0 (4)	0 (3)	0 (1)	0 (6)	0 (1)	23 (37)
	その他案件	0 (1)	1 (0)	2 (0)	1 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (4)
水質事故等 合計	9 (1)	3 (2)	6 (3)	3 (5)	5 (7)	2 (1)	0 (5)	0 (6)	0 (3)	0 (1)	0 (6)	0 (1)	28 (41)	
状況分類	① 耐用年数経過	0 (0)	1 (0)	0 (1)	0 (1)	0 (1)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (5)
	② 耐用年数以内	0 (0)	1 (2)	1 (0)	2 (2)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (1)	0 (2)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	6 (10)
	③ 天災等	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	合計	0 (0)	2 (2)	1 (1)	2 (3)	1 (2)	1 (2)	0 (0)	0 (1)	0 (2)	0 (1)	0 (1)	0 (0)	7 (15)

※状況分類については水質事故等において、事故発生原因が下水道施設の損傷または、設備の故障によるものを集計

※( )内書きは、前年度(令和元年度)の値

※国土交通省へ報告のあった事故について集計

# 水質事故等情報データベース

令和2年9月末現在

NO.	発生年月日	事故情報				事故概要・対応	
		事業主体	発生施設	事故類型	事故概要	事故への対応	
<b>9月</b>							
1	R2.9.3	1. 都道府県	マンホール	水質事故	⑤下水道施設からの下水等の流出	老朽化した圧送管の破損箇所から流入した土砂が下流側のマンホール及び管渠に堆積したことにより、流下機能が損なわれた結果、流域及び公共下水道マンホールから汚水が溢水した。	溢水現場及びその上流側にあるポンプ場にて塩素現金消毒を実施し。緊急放流を実施。
2	R2.9.30	1. 都道府県	処理場	水質事故	③悪質下水の流入によらない放流水質の基準不適合	栄養塩類増加に係る試験運転を実施し、放流全リン濃度を日間平均値0.8mg/Lを目標とした運転を実施していた。毎時データを確認しながらの運転であったが、PAC注入率増加による全リン濃度低下が想定どおり低下せず、日間平均値が事業計画値(1.0mg/L)を超過した。	非常配備体制を執り、PAC注入率を随時見直し、10月1日の全リン濃度の日間平均値は事業計画値以内に低下した。再発防止のため、PAC注入率設定を変更するとともに、放流リン上昇時の対応方法を定めた。